

団体名 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン 発表者氏名 関本幸

1. 貴団体の活動内容について

地球規模の環境破壊を止めるために世界各国のグリーンピースと連携して活動する国際環境 NGO。世界を取り巻く問題、気候変動、原発、エネルギー、海洋生態系保護、森林保護、持続可能な農業等に対する調査、政府や企業への提案要請、マスメディアや市民への情報提供をおこなう。

2. 魚資源の持続可能性に関する詳細について

「ウナギの絶滅危惧について～魚資源の持続可能性：将来世代にウナギを残すには～」

- 日本での消費：日本は世界の 2% 足らずの人口で、世界の生産量の 70% を超えるウナギを消費しています。7 月 29 日は土用の丑の日です。その莫大な需要を満たすために、これまで世界各地でウナギの乱獲が続けられてきた結果、現在、日本で消費されているウナギの 99% 以上が絶滅危惧種に指定されています。グリーンピースでは 6 月から 7 月にかけてレポート 3 本を発行し（2 本は発行済）、大手スーパーマーケット 15 社にウナギの調達方針をアンケート調査し、持続可能な調達方針の策定及び実施を求めています。
- 2014 年 6 月、国際自然保護連合（IUCN）は、ニホンウナギが近い将来絶滅する危険性が高いとして絶滅危惧種に指定しました。日本では「ウナギが食べられなくなる」という報道も高まる中、将来世代にも魚を残すためには各ステークホルダーがどのような役割を果たす必要があるのか、特にグリーンピースでは、持続可能な魚を食べたいと願う消費者とともに、日本の食卓にのぼるお魚の 7 割を販売するスーパーマーケットに、持続可能な調達方針を策定して実行するよう働きかけています。

3. 「POST2015 年課題領域における優先課題」との関連性について

関連あるテーマ	関連ある課題					
包括的な成長	繁栄と公平性					
人間のニーズと能力	教育		女性のエンパワーメントとジェンダー平等		健康	
資源の 3 要素	食糧・農業	○	水・公衆衛生	○	エネルギー・気候	○
発展を可能にする環境	平和・安定	○	インフラ・技術		グッドガバナンス・人権	

4. 魚資源の持続可能性とビジネス（業界）との関わりについて

小売業：ウナギやマグロなど魚介類の絶滅を防ぐには、一つのステークホルダーであるスーパーマーケットが、自社サプライチェーンにおいて持続可能な調達方針を策定・実行することが必要です。

業界最大手のイオンは、自然資源の持続可能性と事業活動の継続的発展の両立をめざして2014年3月に「持続可能な調達原則」を策定・発表しました。「違法漁業の排除」、「漁業資源枯渇の防止」、「トレーサビリティの確立」等、グリーンピースが求めてきた要素が多く明記されています。

同時に、乱獲も大きな問題です。現在世界の漁業は持続可能なレベルの2.5倍の規模で行われていると言われていています。ウナギやマグロに代表されるように次々と資源量が激減しているにもかかわらず、政府や国際機関による資源管理や漁業規制はあまりに緩く、その強化は遅く、とても自然界から魚が消える速度に追い付いていません。

<「お客様の声」がスーパーを動かしてきた例>

(2011年)

- イオン、放射能ゼロ目標宣言を発表

(2013年)

- イオン、イトーヨーカドー、ダイエー、ユニーが、絶滅危惧種ヨーロッパウナギの取り扱いを中止
- イオン、ダイエー、ユニーが、激減するクロマグロの未成魚の取扱制限を決定
- 西友、魚介類商品のトレーサビリティ体制の強化を約束

(2014年)

- イオン、「持続可能な調達原則」を発表
- イズミ（本社・広島県）が絶滅危惧種ヨーロッパウナギの取り扱いを中止

5. 本プログラム参加企業へのコメント

グリーンピースは、現在の社会は「政府・行政」、「ビジネス」、「市民社会」のバランスが悪いと考えています。

市民の声を反映した政治・行政及び市場経済にするために、「創造的対立」を念頭において、グローバルでキャンペーンを展開しています。

以上